

左からセミナリヨ跡・常楽寺港跡・重要文化財浄厳院本堂・下街道

「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー
安土城築城 450 年記念
滋賀県立安土城考古博物館令和８年度秋季特別展連携事業

織田信長と城下町

プログラム

13:00～13:30 報告「特別展　天下人の城下町　安土」・・・・・・・・・・・１頁
髙木叙子氏（滋賀県立安土城考古博物館主任専門員）

13:30～14:30 講演「信長の城下町」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６頁
山村亜希氏（京都大学大学院教授）

14:30～14:40　休憩

14:40～15:30 パネルディスカッション「織田信長と城下町」
パネラー：山村亜希氏・髙木叙子氏
コーディネーター：松下浩（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課副主幹）

日　時：令和８年（２０２６）１０月２５（日）　１３：００～15:３０
会　場：安土文芸セミナリヨ　滋賀県近江八幡市安土町桑実寺７７７
主　催：滋賀県（観光文化スポーツ部文化財保護課）
共　催：公益財団法人安土町文芸の郷振興事業団

発行日：令和８年(２０２６年）１０月３１日（日）
編集・発行：滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課
〒520-8577　滋賀県大津市京町四丁目１番１号
TEL077-528-4678　FAX077-528-4956　E-Mail　castle@pref.shiga.lg.jp
URL　https://www.pref.shiga.lg.jp/menu/25639.html
「淡海の城」友の会
URL　https://www.pref.shiga.lg.jp/sd00/2594.html



豊臣兄弟（アプリＣＧ）

「近江の城」魅力発信事業・連続講座「近江の城郭」

北近江の戦国史３　豊臣兄弟と近江

滋賀県には約１３００の城跡があり、安土城や彦根城といった巨大城郭から、小規模な城館や砦まで、バラエティに富んでいます。また、武士以外にも僧侶や百姓など、様々な人々が城を築いており、城は、滋賀の歴史や文化の特徴を色濃く反映した、滋賀ならではの歴史・文化遺産です。滋賀の城は、滋賀の魅力を伝える地域の宝として全国の人々から関心を寄せられており、多種多様な滋賀の城の魅力を広く発信していくことが求められています。

さて、本能寺の変で織田信長が世を去って後、時代は大きく動きます。新たな天下人として羽柴秀吉が台頭し、全国統一を進めていきます。しかし織田信長の死によって、いっきに天下人争いが繰り広げられたのではなく、まずは織田家の中で主導権争いが展開します。その第一段階が清須会議から賤ケ岳の合戦へと続く一連の流れです。織田家の４人の宿老が話し合った清須会議では、秀吉は自身の居城と領知である長浜を柴田勝家に譲り、自身は山城・丹波といった畿内の要地を手に入れます。歩みは一足飛びではなく、織田家中での主導権争いを経て、徐々に天下人への近づいていったのです。近江では、信長時代の拠点城郭が廃され、新たな城郭が築かれるとともに、秀吉子飼いの武将たちが新たに近江に領地を与えられます。秀吉が天下統一に向けて大きな一歩を踏み出したこの時代は、近江の歴史にとっても大きな画期だったのです。

この連続講座では、滋賀の城の魅力を広く県内外に発信することを目的に、豊臣時代の北近江の戦国遺跡を、専門職員の案内で探訪します。

連続講座の日程・テーマ

（１）第１回「賤ケ岳の戦い①　羽柴軍の最前線～神明山砦・堂木山砦」
　　開催日：令和８年１２月１２日（土）
　　現地探訪：神明山砦跡・堂木山砦跡（長浜市）
（２）第２回「賤ケ岳の戦い②　羽柴軍の本陣～田上山城」
　　開催日：令和９年１月２３日(土)
　　現地探訪：田上山城跡（長浜市）
（３）第３回「羽柴秀吉　天下人への第一歩～長浜」
　　開催日：令和９年２月２０日(土)
　　現地探訪：長浜城跡・城下町跡（長浜市）

※各回の実施の詳細（集合場所、開始時刻・終了時刻等）および参加者募集については、開催の約１ヶ月前に別途ご案内いたします。参加申込は各回ごとにお願いします。

特別展「天下人の城下町 安土」

滋賀県立安土城考古博物館
主任専門員　髙 木　叙 子

はじめに　令和８年は「安土築城450年記念」の年！
滋賀県立安土城考古博物館では…
- 安土城：令和７年度秋季特別展「天下人の城 安土城」
- 城下町：令和８年度秋季特別展「天下人の城下町 安土」

(1) 安土城への道

天文15年(1546)　元服して三郎信長と名乗り、**那古野城**主となる　⇐ **国衆の城**
天文24年(1555)　尾張下四郡守護代を討ち、守護所である**清須城**に入る　⇐ **大名の城**
永禄６年(1563)　尾張国**小牧山に城**を築き、居城を移す　城下町も建設
⇒ 山頂主郭部を覆う**大規模な石垣**（階段状に重ね高さを誇示）
⇒ 城と惣構の堀の間に短冊形地割による戦前とした町並を新設
永禄10年(1567)　斎藤氏の稲葉山城に入城し、**岐阜**と改める
⇒ 山上の城と山麓居館　居館に大規模な庭　金箔の**飾瓦**
城下町井口の復興　加納の楽市制札　古い二元的城下町踏襲
⇩
天正４年(1576)　安土築城を開始　城下町建設にも着手　⇐ **天下人の城**
⇒ 織豊系城郭（石垣・礎石建物・瓦、高層天主）　近世城郭の魁
but　実際はプロトタイプ的要素と中世的要素と突発出現的要素が混在

信長はいつから天下人？：髙木の考え
天正３年(1575)11月４日 信長が従三位権大納言に任官　７日 右近衛大将に追任
11月28日 織田家の家督と尾張・美濃を嫡男信忠に譲る
⇒ *大名（領主）の地位を息子に譲り、その上の存在＝「天下人」に*

(2) 安土城下町

①城下町の位置と前史

安土山の南西に南北に細く延びる舌状台地に築かれる ＝ 現在も市街地に一致
⇩　※ただし当時は湖が城山の東・北・西面を囲み、城下町の北まで入り込む
近江八幡市安土町下豊浦・上豊浦・常楽寺・慈恩寺・小中にわたる範囲
- 下豊浦：奈良時代以来の**豊浦庄** … 活津彦根神社が庄の鎮守
「米町」「豆町」「寺町」「玉木町」など城下町特有の地名が伝わる
- **常楽寺**：豊浦庄年貢積出港・観音寺城の外港・信長も宿泊した宿場町 etc.
常楽寺を本拠とする木村氏とその館跡あり　木村次郎左衛門尉高重

町割の縦の主軸線が３種類 … 必ずしも規則的な方形地割りにはならない

① 常楽寺周辺：南北方向から少し西に振れた地割　蒲生郡条理と一致　中世以来の集落

② 下豊浦から上豊浦へ：①より10度東を向く地割　豊浦庄　活津彦根神社参道と一致

③ 城下町東側（東町から新町）：②より７度東に振れる地割　新宮神社の門前町？

城下町部分が描かれた最古の絵図は「**江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図**」（元禄(1695)８年）

②信長の城下町振興策

豊浦と常楽寺という中世集落を元にした城下町を賑わわせる方策

＊優遇策を示しての町人誘致 …「**安土山下町中掟書**」*(資料②)*

ex. 城下町全体を楽市楽座に　*だたし楽座は信長の専売特許ではない!!*

＊寺院等の誘致 … 浄厳院・セミナリヨ

③城下町の様相　発掘調査が進まず地下からの情報はわずか

家臣屋敷地：築城と同時に屋敷地付与 … 自前で普請

・基本的に家臣はみな「山下」に屋敷 ⇔ 側近らは山上にも

※家臣移住の実態と信長の対応 *(資料③)*

・屋敷地推定 … 北端（七曲道起点あたり）に家臣名の小字あり

ただし他にもあり、家臣集住の傾向は希薄？

『イエズス会日本年報』には、大身や武士は別地区とも？

宗教施設等：寺院や神社は城下に散在（古いものはその場所に）

誘致した浄厳院は城下の西南端 *(資料⑤)*

セミナリヨの場所はあくまで推定地 … 「だいうす」か「シュノミザ」か

城下町範囲：北は内湖・東は安土城・南は不詳・西は浄厳院の西？

「西の木戸」の地名・天正７年(1579) ６月の波多野兄弟の処刑場（慈恩寺末）

「江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図」に見える「惣構どて」

町の美観：『イエズス会日本通信』等…居住民は高貴、建築が立派、甚だ美しく堅固。

「街路は広く真直にしてその美観を増し、ここに5、6000人の住人がいる」

⇩

安土はまだ「近世城下町」には到達していない

・計画的町割・方形地割は不完全　　・城下は一元状態（市場・居住区・宗教施設）

・家臣や商工業者の集住と居住区の身分的分化も未発達　cf. 身分制自体が未固定

おわりに－安土城下町のゆくえ－

天正10年(1582) ６月　本能寺の変で信長討死、山崎合戦後に安土城主郭部焼失

12月　羽柴秀吉が信長嫡孫の三法師を安土に移送

天正11年(1583)正月　織田信雄が「家督」もしくは「後見」として安土入城

天正13年(1585) ８月　羽柴秀次が安土の５キロ南西の八幡山城に築城開始

⇩　⇒ 安土は廃城となり城下町も八幡に移されたと考えられる

八幡城下町に安土と同じ町名が多数

安土山下町中掟書も町の有力者と共に八幡に移り、そこで伝えられた

安土城下町関係資料

① 天正四年（一五七六）正月、安土築城開始、家臣らに城下に屋敷地を与える

【信長公記】正月中旬より江州安土山御普請、惟住五郎左衛門に仰付けらる。二月廿三日、安土に至つて信長御座を移させられ、先御普請御意に相ひ、御褒美として御名物の周光茶碗、五郎左衛門に下され、忝き次第なり。御馬廻御山下に各御屋敷下され、面々手前々々の普請申付けらる。

② 天正五年（一五七七）六月、信長が安土城下町に定書を発布する。

【安土山下町中掟書】

定　　安土山下町中

一、当所中為楽市被仰付之上者、諸座・諸役・諸公事等悉免許事、
一、往還之商人、上海道相留之、上下共至当町可寄宿、但於荷物以下之付下者、荷主次第事、
一、普請免除事、但、御陣・御在京等御留守難去時者、可致合力事、
一、伝馬免許事、
一、火事之儀於付火者、其亭主不可懸科、至自火者遂糺明、其身可追放、但、依事之体可有軽重事、
一、咎人之儀、借屋并雖為同家、亭主不知其子細、不及口入者、亭主不可有其科、至犯過之輩者、遂糺明可処罪過事、
一、諸色買物之儀、縦雖為盗物、買主不知之者、不可有罪科、次彼盗賊人於引付者、任古法贓物可返付之事、
一、分国徳政雖行之、当所中免除事、
一、他国并他所之族、罷越当所仁有付候者、従先々居住之者同前、雖為誰々家来、不可有異儀、若号給人、臨時課役停止事、
一、喧嘩・口論并国質・所質・押買・押売・宿之押借以下一切停止事、
一、至町中譴責使・同打入等之儀、福富平左衛門尉・木村次郎左衛門尉両人仁相届之、以糺明之上可申付事、
一、於町並居住之輩者、雖為奉公人并諸職人、家並役免除事、付、被仰付、以御扶持居住之輩、并被召仕諸職人等、各別事、
一、博労之儀、国中馬売買、悉於当所可仕之事、
右条々、若有違背之族者、速可被処科者也、

天正五年六月日

（朱印）

③ 天正六年（一五七八）正月二九日、安土城下の単身赴任者宅から出火したため、信長が家臣の家族を安土に呼び寄せるよう指示する

【信長公記】正月廿九日、御弓の者福田与一宿より火事出来。是偏に妻子を引越し候はぬ故回禄の由、御諚なされ、則、菅屋九右衛門御奉行として、御着到を付けさせられ、御改候の処、御弓衆六十人・御馬廻六十人、百廿人妻子越し候はぬ者一度に御折檻。御弓衆の内より火を出し申すに付いて、先曲事の旨上意にて、岐阜中将信忠公へ仰遣はされ、岐阜より御奉行出され、尾州に妻子置き申候御弓衆の私宅悉く御放火なされ、竹木迄伏せさせられ、これに依つて、取物も取敢へず、百廿人の女房共安土へ越し申候。今度の過怠として、御構の南江の内に新道を築せられ、何れも御赦免候なり。

④ 天正六年（一五七八）一〇月一〇日、信長が栗太郡に所在する浄厳院の僧を、安土城下に移住させるよう家臣に命じる

【織田信長朱印状】

こんせの坊主寺領事、昨日如申聞、可相渡之候、自余之坊主も此方へ越候ハヽ可遣候、無左候ハ、皆可為欠所候、成其意可申付事、専一候也、

（天正六年）十月十日　（朱印）

（墨引）　長谷河竹とのへ　　信

野々村三十郎とのへ

⑤ 天正七年（一五七九）六月八日、丹波八上城で召し捕った波多野兄弟三人を、城下の慈恩寺末で磔に処する

【信長公記】去程に、丹波国波多野の館、去年より維任日向守押詰取巻き、（中略）波多野兄弟三人の者調略を以て召捕り、六月四日、安土へ進上。則、慈恩寺町末に三人の者張付に懸けさせられ、さすが思切りて、前後神妙の由候。

⑥ 天正八年（一五八〇）閏三月、信長がキリスト教宣教師に屋敷地を与える

【信長公記】閏三月十六日より菅屋九右衛門・堀久太郎・長谷川竹両三人御奉行として、安土御構の南、新道の北に江をほらせられ、田を塡させ、伴天連に御屋敷下さる。

⑦ 天正八年（一五八〇）閏三月、信長が家臣たちに屋敷の普請を命じる

【信長公記】今度蒲生右兵衛太輔家中、布施藤九郎御馬廻に召加へられ、是又江を塡させ、御屋敷下され、忝き次第面目の至りなり。

御馬廻・御小姓迄御普請仰付けられ、鳥打の下江を塡めさせられ、町を立てさせられ、西北海の口に舟入所々にほらせ、請取の手前手前に木竹を植ゑさせ、其上江堀を塡めさせ、各御屋敷下され候。人数（氏名略）かくのごとく仰付けられ、信長は日々御弓衆御責子にて御鷹つかはされ候キ。

⑧ 天正八年（一五八〇）五月七日、城下の堀・港・道の普請が完成したため、信長が担当した丹羽長秀と織田信澄の労を労い、暇を出す

【信長公記】五月七日、江堀・舟入・道築、何れも御普請出来申すに付いて、惟住五郎左衛門長秀・織田七兵衛信澄、永々辛労仕候間、御暇下され、両人在所へ罷越し用事申付候て、頓て罷帰るべきの旨、忝くも上意にて、七兵衛信澄は、五郎左衛門は佐和山へ参り候なり。

⑨ 天正九年（一五八一）正月二日、安土町人らが信長に雁・鷹を賜った礼として、沙沙貴神社で能を興行する

【信長公記】正月二日に、安土町人共に御鷹の雁・鶴を余多町々へ下され、忝きの由候て、佐々木宮にて御祝言として能仕り、爰にて頂戴候なり。

⑩ 天正九年（一五八一）一〇月、信長、足入沼を埋めて伴天連住居を建てさせる

【信長公記】十月廿日より、伴天連、北南に二通り、新町・鳥打へ取続き立てさせられ候はん由候て、御小姓衆・御馬揃衆へ仰付けられ、足入沼を塡めさせ、町屋敷築かせられ、御普請これあり。

⑪ 城下町に関する宣教師たちの資料

【イエズス会日本年報・一五八一年】

安土山のカザ及びレジデンシヤについて

信長は都及び天下Tenca（日本人は日本の王国monarchiaをかく称す）の主であるけれども、通常は近江国安土山Anzuchiyamaの市に居住してゐる。この市は都より十四レグワあり、信長が都を征服した後、これを選んで住居地とし、同所より日本王国を治むること十二、三年である。信長はここに新たなる市と一つの城を建設したが、日本に在る最も壮大なるもので、その位置のよきこと、居住民の高貴なること、建築の立派なることにおいては、他の市に勝ってゐる。この市は平地に在り、一方には長さ二十四レグワ幅五、六レグワの大なる湖水があって、市内にも突入してゐる。（中略）山の麓には平民の居住するために造った市があり、街路は広く真直にしてその美観を増し、ここに五、六千人の住民がゐる。また山麓の他の方面は湖水の入江によって市と隔離されてゐるが、ここに大身及び武士達の家を造ることを命じた。諸人皆その意に従はんことを望み、彼に服従せる諸国の領主は甚だ立派なる邸宅を建築し、高き石垣をもってこれを囲み、石垣の上には胸壁を設け、皆よき城の如きものである。かくの如き邸宅は最も高き山の四周に立ち並んで上まで達し、山頂には信長の城がある。

【イエズス会日本年報・一五八二年】（前略）（前略）彼は近江国の安土山と称し、都より十四レグワの所に甚だ驚くべくまた非常に立派なる城と宮殿とを建築した。（前略）その下には新に市を建てたが、日に月に栄え、今は長さ一レグワに達した。而して征服した諸国を一層安全ならしむるため、主なる領主に妻子と共に同所に居住し、広大なる邸宅を建築することを命じた。都より安土山までは、すでに述べたとほり、十四レグワあるが、この間に平坦な道路を造り、両側に木を植え、非常に大きな橋を架け、足を濡らさずして通行さるるやうにした。

【フロイス『日本史』第五三章】（前略）そこで同山の麓の平野に庶民と職人の町を築き、広く真直ぐに延びた街路―それは実に長く立派な通りだったので、美しく見事な景観であった―を有するその市の整備を彼らに担当させた。これらの街路ははなはだよく手入れされていて、人々の往来が盛んなために、毎日二回、午前と午後に清掃が行われていた。すでに市は一里の長さにおよび、住民の数は、話によれば六千を数えるという。（中略）市から距たった湖の入江に沿った他の場所に、山麓を起点として（信長）は領主や高貴な人たちの邸宅を築くことを命じた。



安土城下町（西部）推定図
（神保忠宏氏作成）

信長の城下町

山村亜希（京都大学）

1　はじめに

中近世移行期における近江の城下町の立地（図①）
織田信長期（坂本・長浜・安土・大溝）、豊臣秀吉期（八幡・水口岡山・大津）、徳川初期（彦根・膳所・水口）
琵琶湖岸における拠点城郭の立地＝湖上水運の掌握を特に優先
⇒安土城下町は、どのようにして港を取り込んだのか？（安土城下町と港の関係）
　安土城下町には、どのような立地・形態の特徴があるのか（安土の地理環境）？

2　湖東における安土の立地

①湖東平野の広域交通路：東国（尾張・伊勢・美濃）～京都の間・・・伊勢道、八風街道、上街道・下街道（図①）
　鈴鹿山脈をいかに越えるか：尾張（その先の三河以東）と京都の往来には、八風街道が便利
　　鈴鹿峠（伊勢街道）：長距離・緩傾斜、八風峠（八風街道）：短距離、急傾斜
　八風街道の湖岸への到達点が安土・八幡周辺
②湖岸地形（図②）：河川による土砂堆積が進行する河口平野はカスプ状デルタに→内湖や湾（入江）に港が成立
　　大河川の河口を回避し、湖岸線が複雑に入り組む→良港の条件：湖岸線の中でも限定される
　　湖岸には水路網も発達・・・細かく船で到達可能
③湖東平野の中央部に多くの孤立丘が点在（安土山・八幡山・繖山など）：湖東カルデラの残丘群
　　琵琶湖水運の目印や退避場所に→良港の条件。山城の建設にも適した地形
　⇒東国―京都の広域交通路と琵琶湖の結節点＋良港の条件
　　安土：佐和山と並ぶ、湖東平野屈指の交通の利便性に優れた立地では！？

3　安土の微地形と港

・半島状に突き出す微高地（図④）・・・地形の成因（図③）：自然堤防と２列の砂州に区分
・自然堤防に常楽寺、砂州に下豊浦・・安土築城前から内湖や水路網を使う複数の船着場と集落を想定：港の発達
・常楽寺・下豊浦（図⑤）：中世下街道（景清道）が通過せず＋湖岸にタテに伸びる集落形態
　　→八風街道と琵琶湖の流通往来が集落形成に影響？
・常楽寺：先行する条里地割を延ばした南北道を基軸とする集村。湖岸に向かって下る集落、共有の船着場＝町
　　観音寺城・八風街道・下街道からの分岐道の終点→六角氏の外港、築城以前から信長が上洛時に利用
・下豊浦：砂州上で条里地割は未施工。２列の各砂州の水際線に平行する神社参道・馬場。
　　集落は街道や水際線に沿って、いくつかに分かれて分布。常楽寺より密度は薄く、船着場も分散＝村

4　安土城下町のかたち

・異なる方位の直線道を軸に、それらに平行する街路群が微高地上のみに展開
　→歪んだ方形街区が南北に長く展開。下街道をその中に屈曲させつつ引き込む
・安土城の「大手道」は低湿地の中を貫通する「新道」（下街道）へ向き、町（豊浦）に向かない：大手の象徴性
・微高地から降りた水辺の低地に「寺内」。条里の方位に合致する道の周囲に密集する小道
　→方形街区は未施工。下街道も集落には引き込まず：旧来の集落＋寺内の水辺開発地
・「惣構土手」は築城前からの２つの旧集落（豊浦と常楽寺）の境界地帯に存在
・豊浦（既存集落＋方形街区）とは対照的に、常楽寺は旧来の港湾集落を拡大・継承

5　信長の城下町と安土：「線」から「面」の都市空間へ

・小牧：未開の台地面を広く利用したため、大部分が新規開発地。整然とした方形街区と背割水路に町を創出。城の周囲と台地上の未利用地に家臣屋敷　⇒　地域開発のためのニュータウン創出型
・岐阜：扇状地・氾濫原の中の微高地を利用。斎藤期以来の戦国城下町・井口を継承。水運（川湊）の重視。歪んだ方形街区に町人地が展開。未利用地（低地）に家臣屋敷　⇒　水運の利便性を優先したオールドタウン拡大・発展型
・安土：岐阜と同じ水運重視のオールドタウン拡大・発展型
　＊守護城下町・山口：直線参道（馬場）の延伸による歪んだ方形街区に家臣屋敷を配置＝政治都市

図①　近江の地形と城・町・街道　（山村亜希作成）



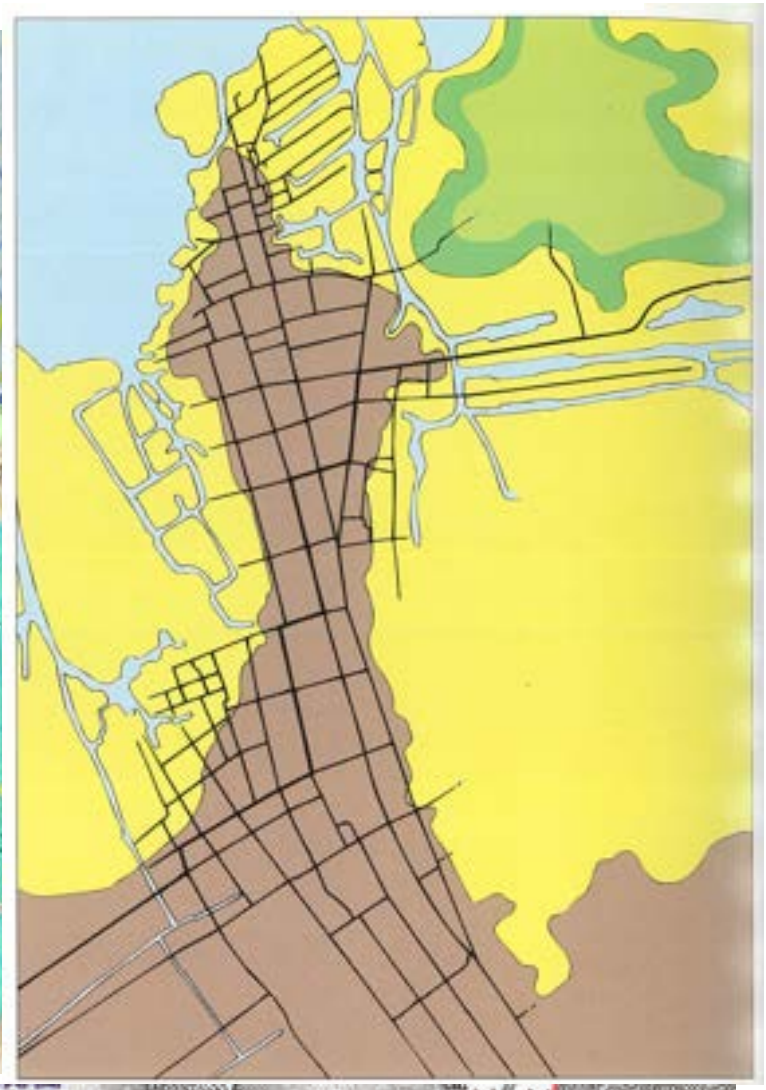
② 近江八幡・安土周辺の地形と湖岸線（山村亜希加筆・着色）



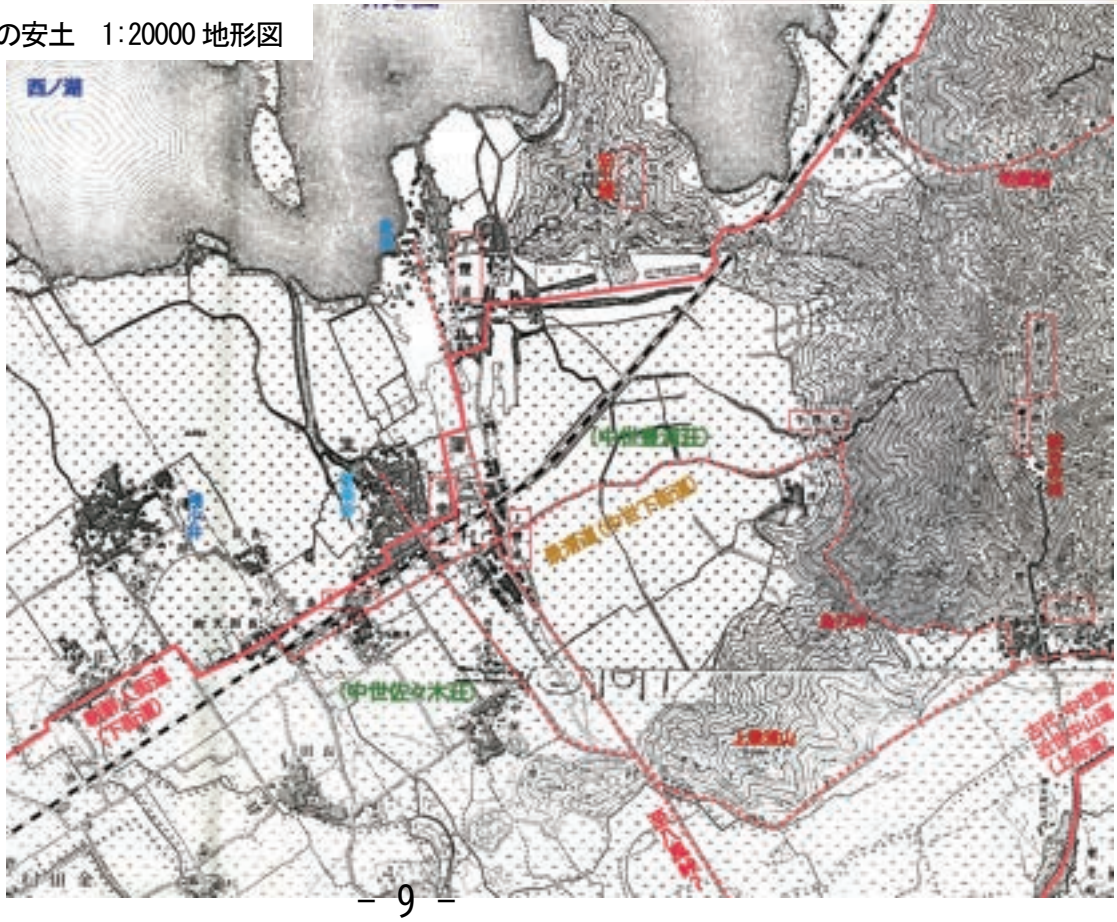
③　安土周辺の地形分類（自然地形）
地理院地図　https://maps.gsi.go.jp/



④　安土の微高地
安土城考古博物館編『城下町の黎明』1997



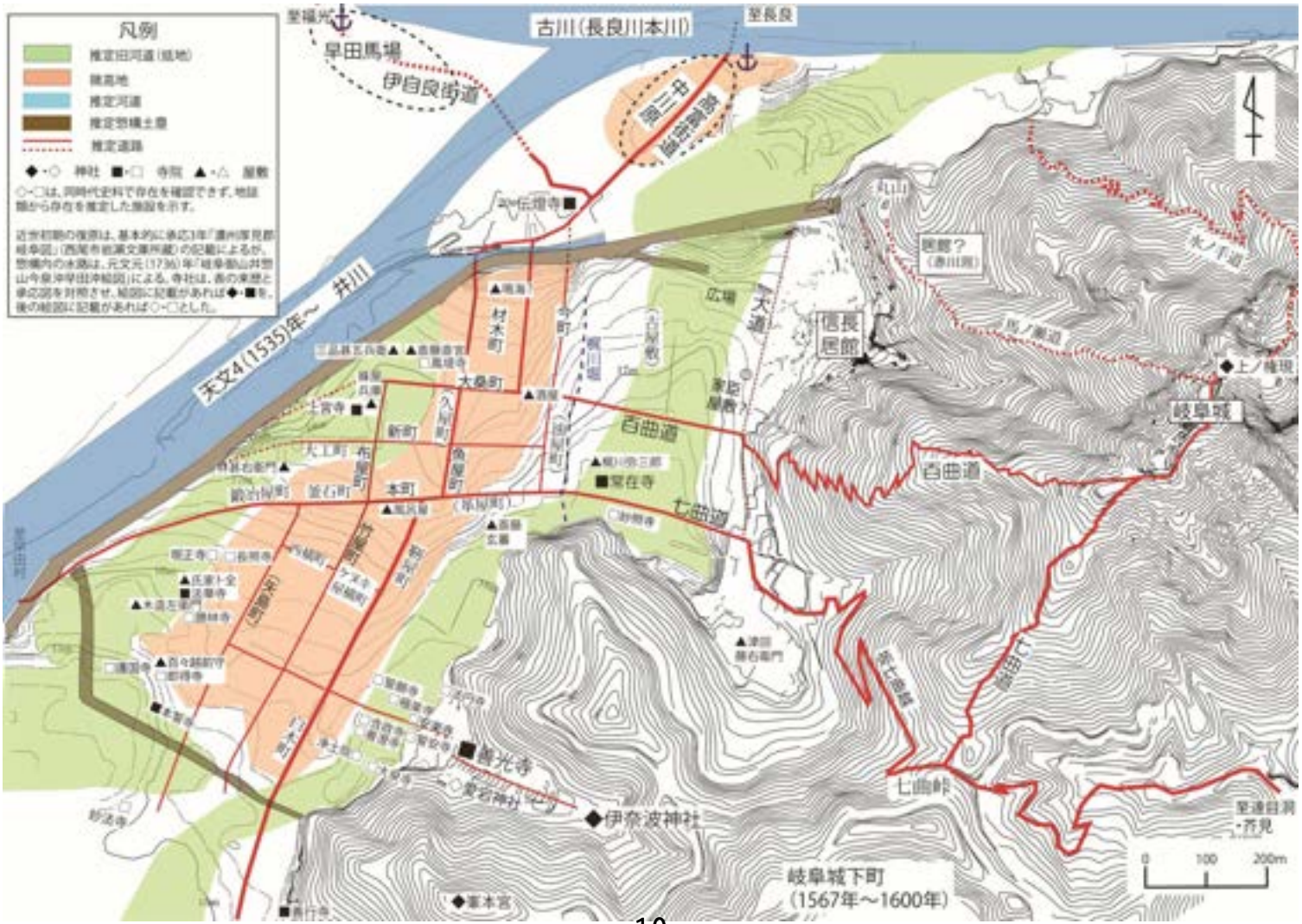
⑤　明治 26（1893）年の安土　1:20000 地形図



⑥　小牧城下町の地形と街区・街路



⑦　信長期における岐阜城下町の地形と街区





愛知県指定文化財　築城図屏風（名古屋市博物館蔵）部分

令和８年度秋季特別展・安土城築城450年記念

天下人の城下町 安土



近江八幡市指定文化財 織田信長画像（近江八幡市摠見寺蔵）部分

令和８年
10月10日（土）―11月15日（日）

開館時間 ＝ 午前９時～午後５時 ※入館は午後４時30分まで
休 館 日 ＝ 月曜日 ※ただし月曜日が祝日の場合は翌日
入 館 料 ＝ 大人970円（750円）／大学生700円（520円）／
小中高生420円（310円）／県内高齢者〈65歳以上〉510円（390円）
※（ ）は20人以上の団体料金です。
主催 ＝ 滋賀県立安土城考古博物館

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

令和８年度秋季特別展　安土城築城450年記念

天下人の城下町　安土

450年前、尾張国（愛知県）から台頭して天下静謐を目指した織田信長は、織田家の家督を息子の信忠に譲って天下人となり、近江国（滋賀県）安土で、壮大な城の建築に着手しました。そしてそのお膝元では、新たな城下町も築かれます。もとあった港町・宿場町に家臣の家族を呼び寄せ、寺社やキリスト教の施設を誘致。町中を楽市楽座にして税金を免除したので、町は大いに賑わいました。信長の死後まもなく、町は隣の八幡に移されますが、安土はその後の城下町のモデルとなり、大坂、江戸へと引き継がれていきました。安土の城下町はどのように作られ、どんな町だったのか、残された資料から考えます。



江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図（個人蔵）部分



近江八幡市指定文化財　近江国蒲生郡安土古城図（近江八幡市摠見寺蔵）



彦根市指定文化財　長谷川秀一画像（彦根市崇徳寺蔵）※10/10～11/1



重要文化財　安土山下町中掟書（近江八幡市蔵）部分

【主な展示資料】
◎は重要文化財　△は県指定文化財　□は市指定文化財
□織田信長画像（近江八幡市摠見寺蔵）
△築城図屏風（名古屋市博物館蔵）
　信長公記 首巻（個人蔵）
　金城温古録 巻12（名古屋市蓬左文庫蔵）
　江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図（個人蔵）
□長谷川秀一画像（彦根市崇徳寺蔵）※10/10～11/1
　金森長近禁制－稱名寺文書－（福井市稱名寺蔵）※11/3～15
◎安土山下町中掟書（近江八幡市蔵）
△織田信長条々－橘家文書－（福井県立歴史博物館蔵）
□織田信長朱印状－酒井家文書－（名古屋市博物館蔵）
△織田信長朱印状－浄厳院文書－（近江八幡市浄厳院蔵）※10/10～11/8
　豊臣秀次画像（大阪城天守閣蔵）
◎徳川家康禁制－長命寺文書－（近江八幡市長命寺蔵）



重要文化財　織田信長制札（岐阜市円徳寺蔵）

秋季特別展記念講演会

10月31日(土) 13:30～15:00

「信長の城下町の系譜 ～安土への道」

講　師：仁木 宏氏（大阪公立大学教授・大阪歴史博物館館長）
参加費：1,000円
定　員：120名（先着順）
会　場：当館２階セミナールーム

城郭トレイル

❶ 10月12日(月・祝)
「安土城跡①」

❷ 11月3日(火・祝)
「安土城跡②」

❸ 11月14日(土)
「観音寺城跡と桑實寺」

※いずれも事前予約が必要（雨天中止）
参加費：2,000円（入山料、保険料含む）
定　員：❶❷25名、❸20名



〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678
Tel. 0748-46-2424　Fax. 0748-46-6140
e-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp
URL：https://www.azuchi-museum.or.jp

最新の情報は当館のホームページにてご確認ください。
https://www.azuchi-museum.or.jp
安土城考古博物館

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

※滋賀県立安土城考古博物館は、(公財)滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。